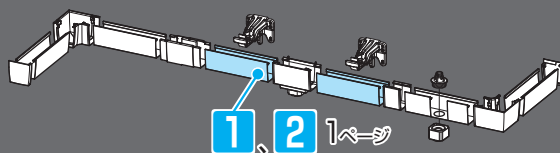
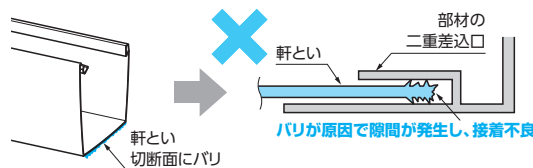


KAKU RK85 : 軒といの施工方法

④ 軒といの切断



■バリ取りをするときは必ず金切りばさみ、ヤスリなどを使う
切断面のバリは必ず取ってください。
隙間が発生し水漏れの可能性があります。

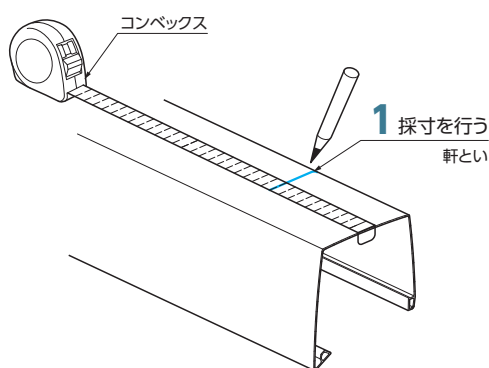
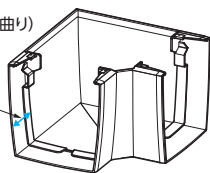
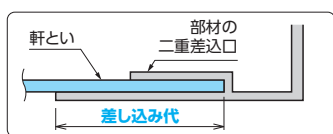


1 軒といの採寸

- コンベックスを使って施工に必要な軒といの長さの採寸を行う。
採寸の際は、差し込み代を考慮してください。

ポイント

- 軒といの採寸は部材の差し込み代分を含めて採寸してください。(例: 曲り)



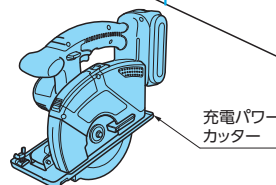
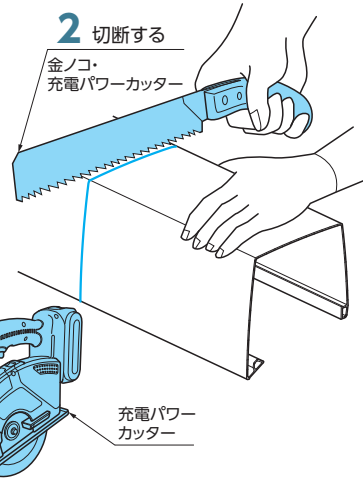
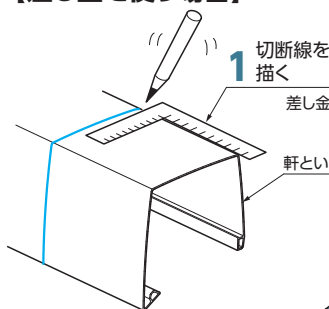
2 軒といの切断、切断面の補修

- 軒といの切断箇所に差し金などをあて、切断線を描く。(直角切断)
- 軒といは金ノコ、充電パワーカッターなどで切断する。

お願い

- 充電パワーカッター使用時の安全に関するご注意
- ご使用前に取扱説明書を必ずよくお読みください。
 - 安全カバーは絶対に外さないでください。
 - 作業時は保護具を使用してください。切断くずや粉じんが目や鼻に入るおそれがあります。
 - 薄板金工刃を使用してください。

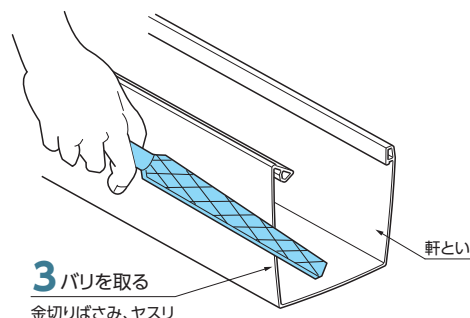
【差し金を使う場合】



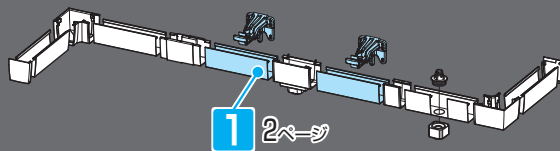
- 軒とい切断面のバリは金切りばさみ、ヤスリなどで必ず取る。

お願い

- 切断面のバリは軒継手や曲りの取り付け時に隙間が発生する場合がありますので必ず取ってください。(水漏れ防止のため)
- 切断面は接着剤を塗布し、端面処理をした方がさびの防止に効果的です。



⑤ 軒といの施工



注意



必ず守る

■前耳・後耳をしっかり吊具にはめ込む

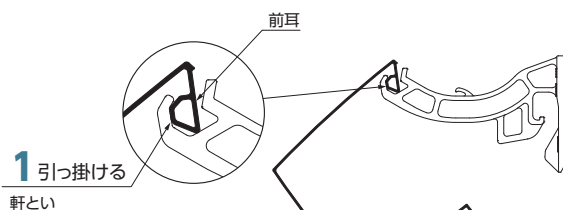
軒といの外れ、落下により、けがをするおそれがあります。

■部品はしっかり隙間が無いようにはめる

水漏れにより建物を傷めるおそれがあります。

1 吊具への軒といの取り付け

- 1 軒といの前耳部を吊具の先端に引っ掛ける。



- 2 軒といの底部を押し上げ、軒といの後耳部に吊具をはめ込む。

ポイント

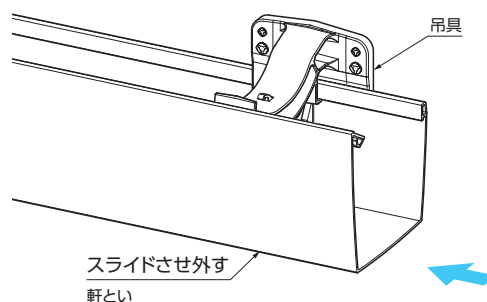
- 必ず前耳から取り付けてください。後耳を入れた後には入りません。
- 軒といの後耳が吊具の挿入ガイドの外へ入らないようにしてください。



- 3 吊具がはまっていることを確認する。

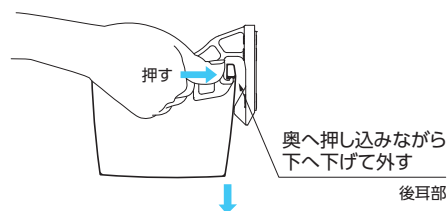
【軒といの外し方(軒継手、曲りが取り付けしていない場合)】

- 軒といを横にスライドさせ外す。

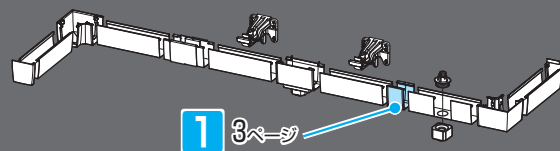


【軒といの外し方(軒継手などでスライドできない場合)】

- 後耳を奥へ押し込みながら下へ下げて、1か所ずつ外す。



⑥ 軒継手の施工



注意

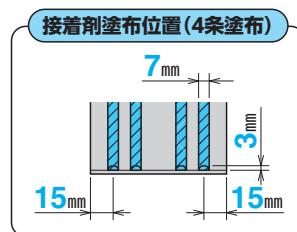
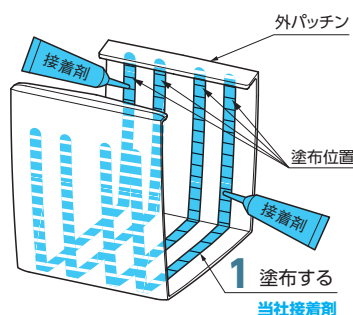
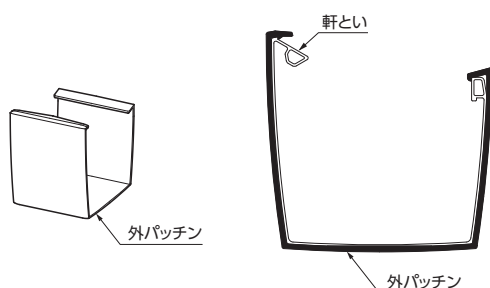


必ず守る

■接着剤は必ず接着剤塗布位置に切れ目なく塗布する
水漏れにより建物を傷めるおそれがあります。

1 軒継手(外パッチン)の取り付け

- 1 外パッチンに接着剤を4条
全周ひも状に切れ目なく塗布する。
(当社接着剤)

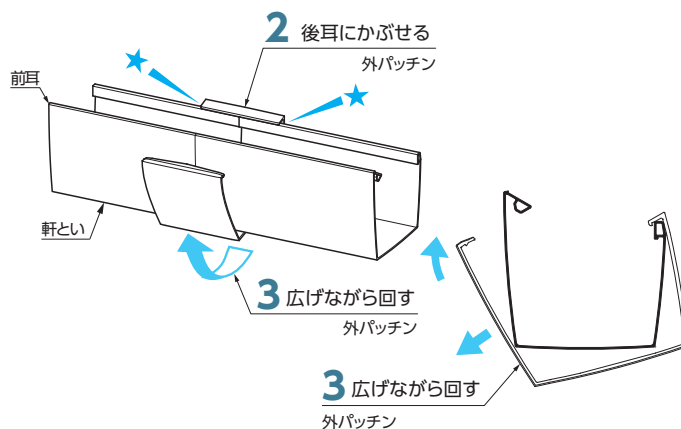


- 2 外パッチンを軒といの後耳にかぶせる。

- 3 接着剤をかき取らないように外パッチンを手前に広げながら回す。

ポイント

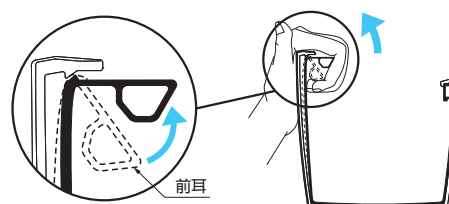
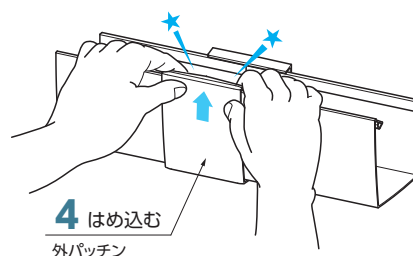
- 軒といの継ぎ目が軒継手の中央にくるように合わせてください。



- 4 外パッチンを手前に広げながら、軒といの前耳にはめ込む。

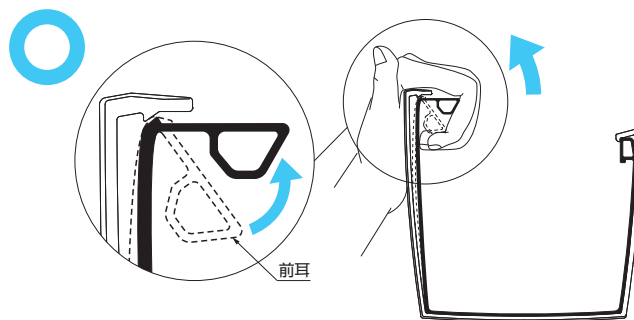
お願い

- 接着剤が軒とい・軒継手の外側にはみ出したり、付着したりした場合、放置しておくとその部分が変色しますので布ですばやくふき取ってください。

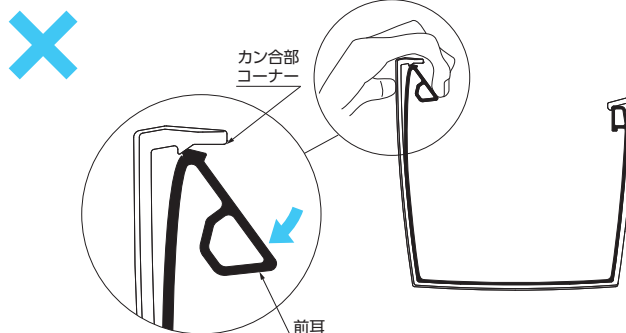


ポイント

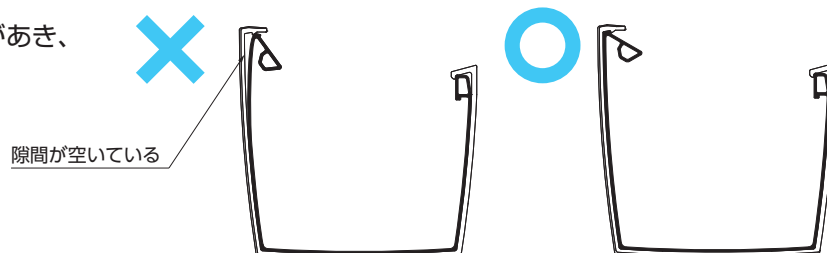
- 軒といの前耳を下から引き上げながら軒継手を押しはめ込んでください。



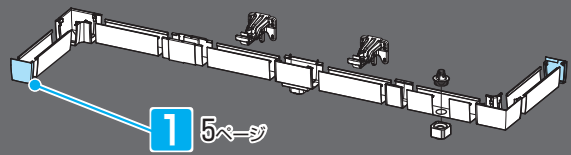
- 軒とい前耳を上から押さえると、カン合部のコーナーが逃げてカン合せにくくなります。



- 軒といと軒とい部品の隙間が無いと軒とい部品の接着施工時は必ず確認する。部材がしっかりはまっていないと隙間があり、水漏れの可能性があります。



⑦止まりの施工



注意

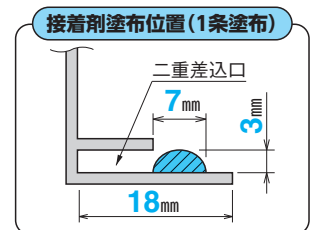
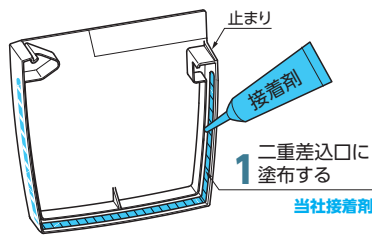


必ず守る

■接着剤は必ず接着剤塗布位置に切れ目なく塗布する
水漏れにより建物を傷めるおそれがあります。

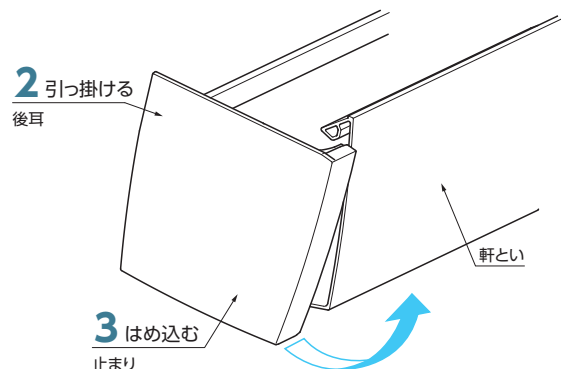
1 止まりの取り付け

- 止まりの二重差込口に接着剤を**全周ひも状に切れ目なく塗布する。**
(当社接着剤)



- 止まりの後耳部を軒とい後耳に引っ掛ける。

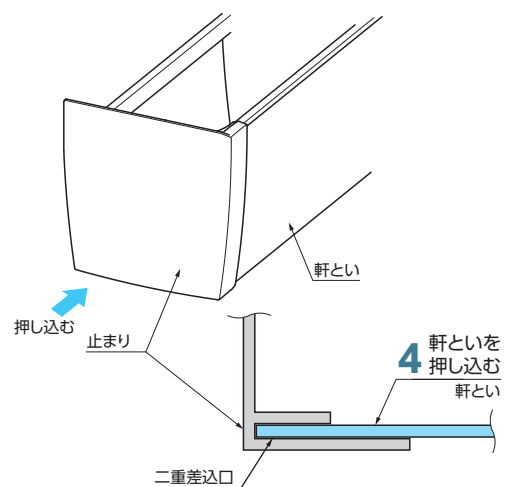
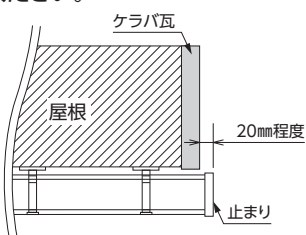
- 軒とい後耳に引っ掛けて回すようにしながら前耳部をはめ込む。



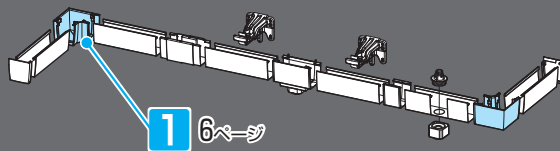
- 止まりの二重差込口の奥まで、軒といを押し込む。

お願い

- 接着剤が軒とい・止まりの外側に、はみ出したり、付着したりした場合、放置しておくとその部分が変色しますので布ですばやくふき取ってください。
- 一般的な切妻屋根の場合、軒といをケラバ瓦より20mm程度出して雨水を受けるようにしてください。



⑧内曲り、外曲りの施工



注意

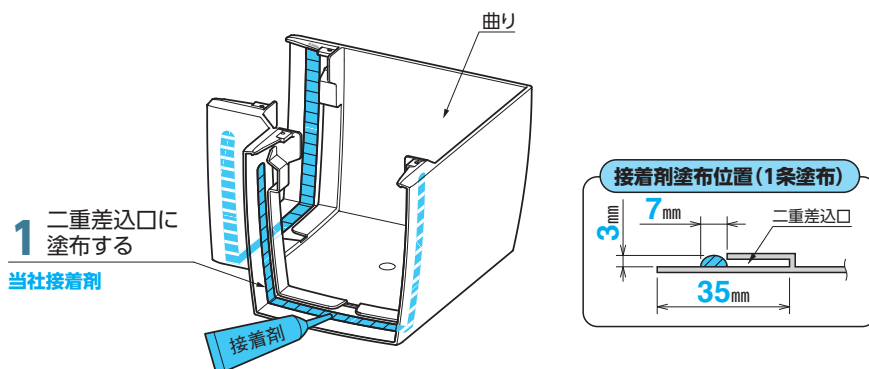


必ず守る

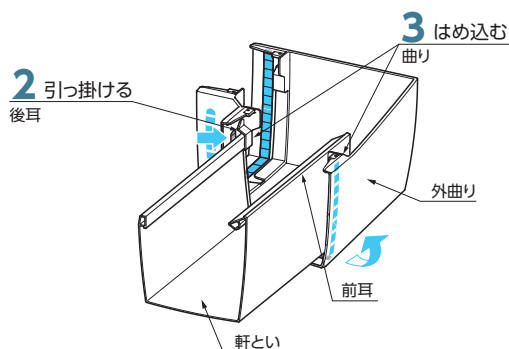
■接着剤は必ず接着剤塗布位置に塗布する
水漏れにより建物を傷めるおそれがあります。

1 曲りの取り付け

- 1 曲りの二重差込口に接着剤を
全周ひも状に切れ目なく塗布する。
(当社接着剤)

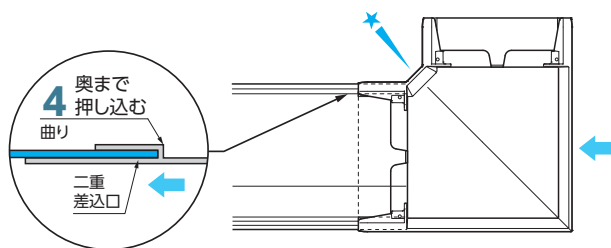
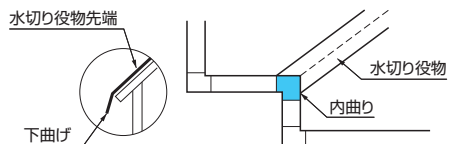


- 2 曲りの後耳部を軒とい後耳に引っ掛ける。
- 3 軒とい後耳に引っ掛けて回すようにしながら前耳部をはめ込む。
- 4 軒といが曲りの奥まで入るように、曲りを押し込む。



お願い

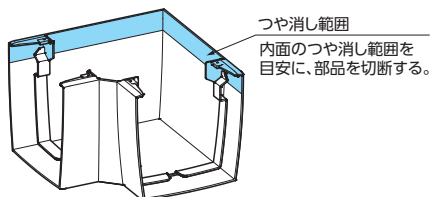
- 接着剤が軒とい・曲りの外側にはみ出したり、付着したりした場合、放置しておくとその部分に変色しますので布ですばやくふき取ってください。
- 内曲り箇所の水切り役物の軒先側先端は必ず下曲げしてください。(雨水飛び出し防止のため)



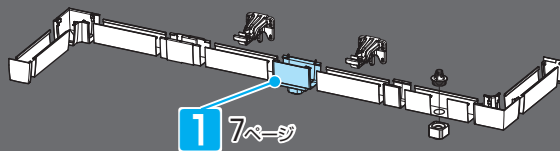
ポイント

- 曲りが屋根材や水切り板などと干渉する場合は、部品を切断してください。

※図は内曲りの場合
外曲りとして使用する場合も、切断可能です。



⑨ 落とし口の施工 (F型集水器)



1 7ページ



注意

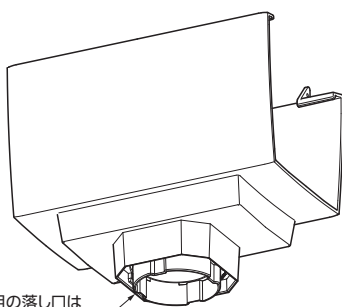


必ず守る

■ 接着剤は必ず接着剤塗布位置に切れ目なく塗布する
水漏れにより建物を傷めるおそれがあります。

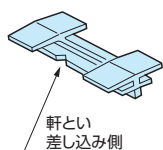
■ F型集水器は形状が軒といに近く、落とし口のオダレ加工が困難なため、スライドストッパーを軒とい端面に取り付ける
水漏れにより建物を傷めるおそれがあります。

F型集水器

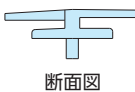


PC30・S30・60用の落とし口は
360°回転可能です。

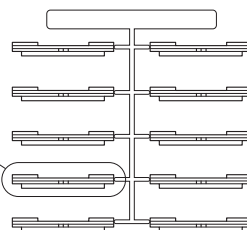
スライドストッパー



軒とい
差し込み側

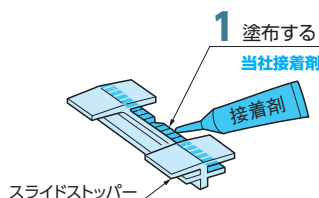


断面図



1 F型集水器の取り付け

- 1 スライドストッパーの差し込み部に接着剤を塗布する。



1 塗布する
当社接着剤

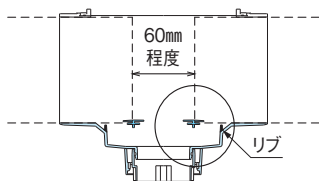
接着剤

スライドストッパー

- 2 F型集水器を取り付ける側の両方の軒とい端面にスライドストッパーを取り付ける。

お願い

- スライドストッパーは必ずリップより内側に
取り付け、軒といと軒といの間隔を約60mm
とってください。
- ※ 伸縮が吸収できないことや、伸縮により外れる
おそれがあります。

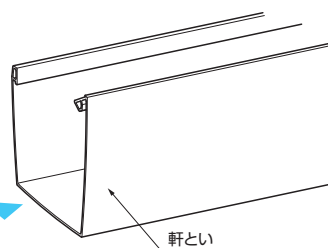
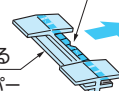


60mm
程度

リップ

2 取り付ける
スライドストッパー

取り付け方向
切り欠き



軒とい

KAKU RK85：軒といの施工方法／⑨落し口の施工(F型集水器)

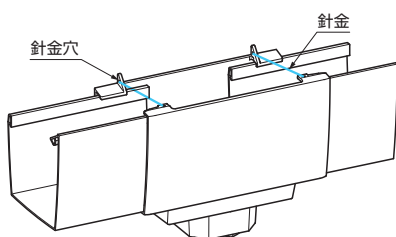
3 F型集水器の後耳部を軒とい後耳にかぶせる。

4 F型集水器を手前に回す。

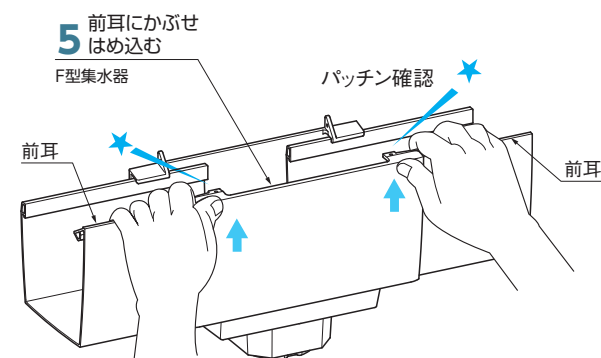
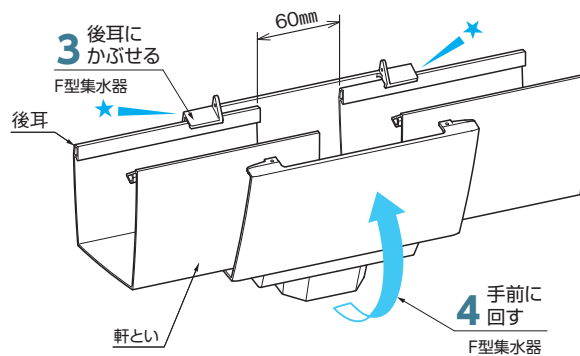
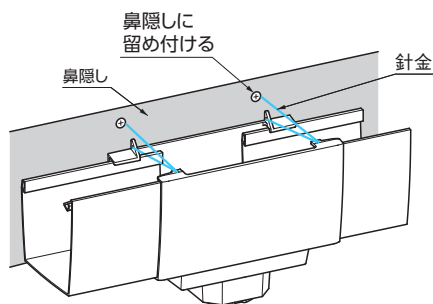
5 F型集水器を軒とい前耳にかぶせはめ込む。

お願い

- 積雪・強風などの予想される場合は、針金穴(4か所)を利用して補強してください。

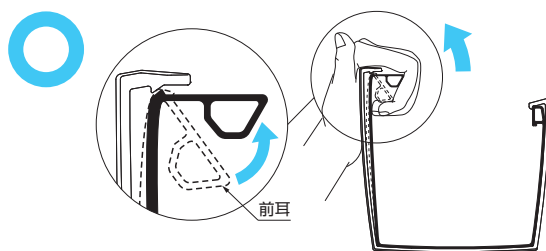


- 多雪地は、針金穴(4か所)を補強した後、針金を鼻隠しに留め付けてください。

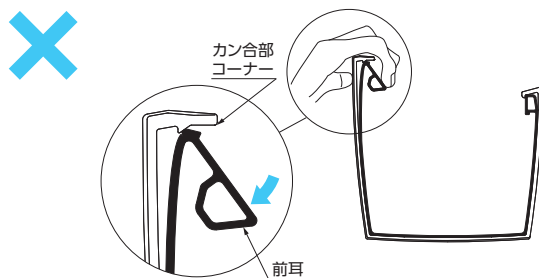


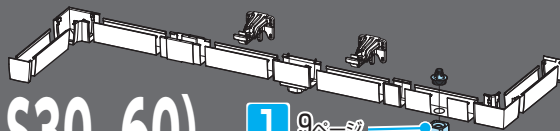
ポイント

- 軒といの前耳を下から引き上げながらF型集水器を押してはめ込んでください。



- 軒とい前耳を上から押さえると、カン合部のコーナーが逃げてカン合させてにくくなります。





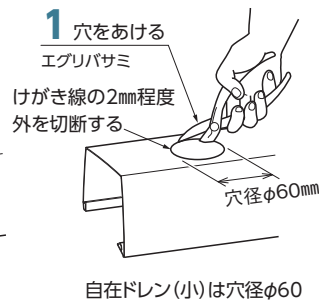
⑨ 落とし口の施工(自在ドレン PC30、S30、60)

1 落とし口の取り付け(自在ドレン PC30、S30、60)

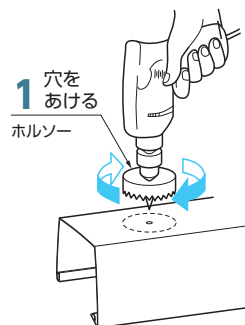
1 自在ドレンを取り付ける位置にエグリバサミまたはホルソーで穴をあける。

- 自在ドレン……穴径65mm
- 自在ドレン(小) …穴径60mm

【エグリバサミの場合】



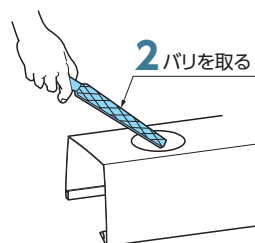
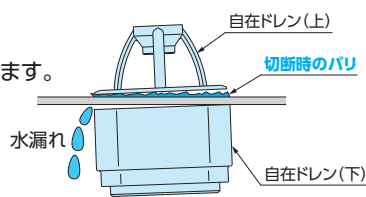
【ホルソーの場合】



2 加工部分のバリをきれいに取り、隙間が出ないようにする。(水漏れ防止のため)

お願い

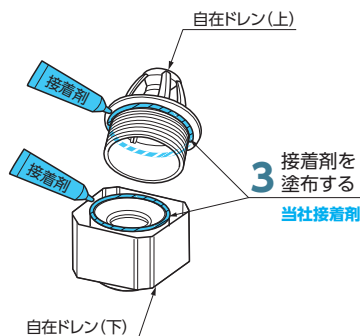
- バリで隙間があると水漏れのおそれがあります。



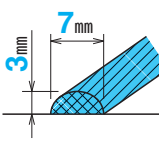
3 自在ドレン(上)のツバの裏側と自在ドレン(下)の接続面に接着剤を全周ひも状に切れ目なく塗布する。(当社接着剤)

お願い

- 当社品以外の接着剤を使用すると、変形・割れが発生するおそれがありますので、必ず当社接着剤をお使いください。
- 当社品でも、塗布量が多すぎると変形、割れが発生することがあります。
- 特に高耐候性仕様の商品の場合、接着剤を増し塗りしたり、当社タニシールなどコーキング剤を使用したりすると、変形や割れが発生しやすくなりますのでおやめください。



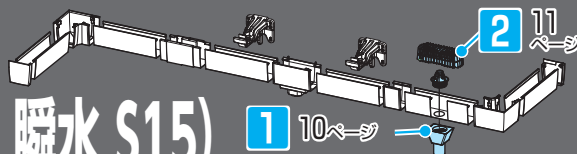
接着剤塗布量の目安



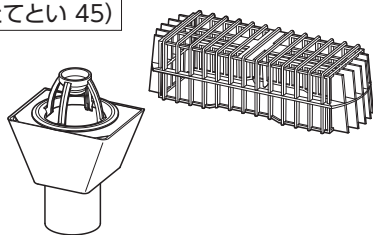
4 自在ドレン(上)と自在ドレン(下)を、軒といの穴をあけた部分に取り付ける。



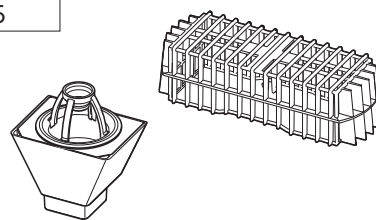
⑨ 落とし口の施工(自在ドレン AST45、瞬水 S15)



AST45 (Archi-spec TOI たてとい 45)



瞬水 S15



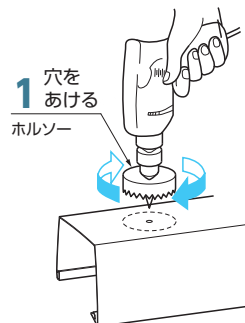
1 落とし口の取り付け(自在ドレン AST45、瞬水 S15)

- 1** 自在ドレンを取り付ける位置にエグリバサミまたはホルソーで穴をあける。
穴径はφ55にする。

【エグリバサミの場合】



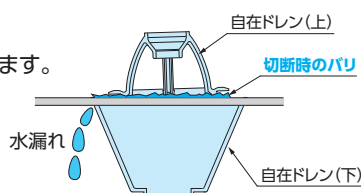
【ホルソーの場合】



- 2** 加工部分のバリをきれいに取り、隙間が出ないようにする。
(水漏れ防止のため)

お願い

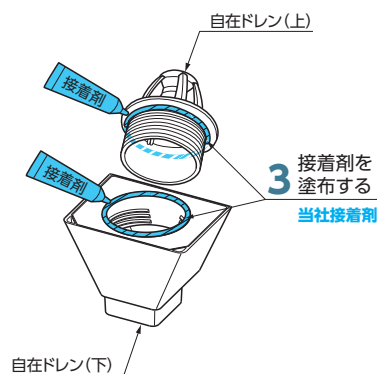
- バリで隙間があると水漏れのおそれがあります。



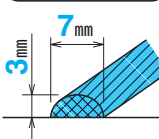
- 3** 自在ドレン(上)のツバの裏側と自在ドレン(下)の接続面に接着剤を全周ひも状に切れ目なく塗布する。
(当社接着剤)

お願い

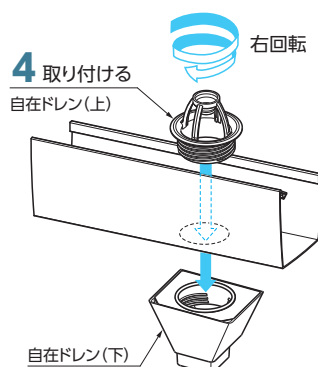
- 当社品以外の接着剤を使用すると、変形・割れが発生するおそれがありますので、必ず当社接着剤をお使いください。
- 当社品でも、塗布量が多すぎると変形、割れが発生することがあります。
- 特に高耐候性仕様の商品の場合、接着剤を増し塗りしたり、当社タニシールなどコーキング剤を使用したりすると、変形や割れが発生しやすくなりますのでおやめください。



接着剤塗布量の目安



- 4** 自在ドレン(上)と自在ドレン(下)を、軒といの穴をあけた部分に取り付ける。

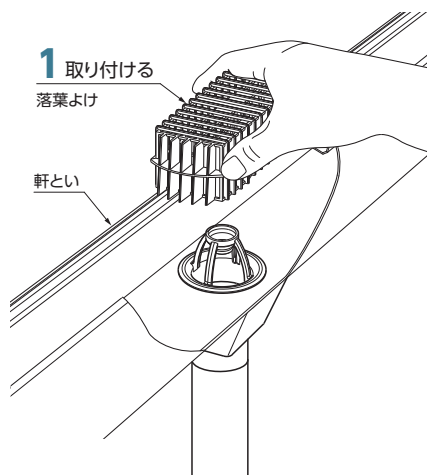
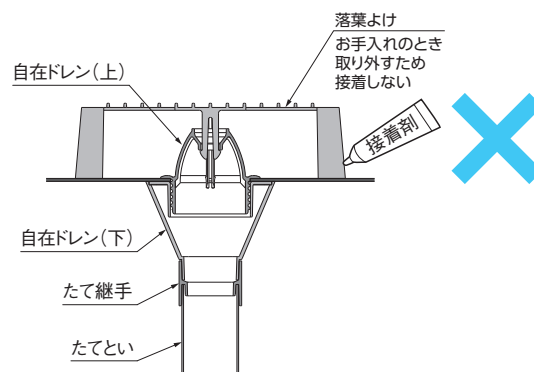


2 落葉よけの取り付け

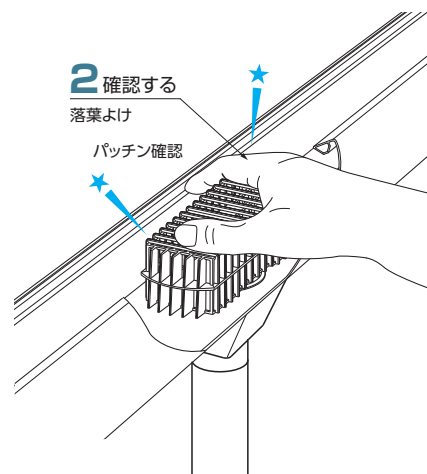
- 1 落葉よけを取り付ける。
(接着剤は不要です。)

お願い

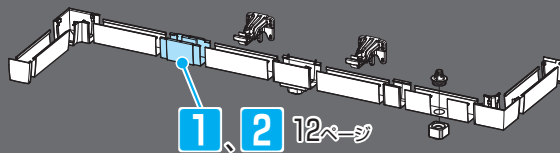
- 自在ドレン(RK85×45)はたてとい短管付(エルボカン合)です。たてといに直結する場合はたて継手をご使用ください。
- 接着剤を使用しないでください。落葉よけの清掃ができなくなります。



- 2 落葉よけが自在ドレンに確実にハマっているか確認する。



伸縮継手の施工



注意

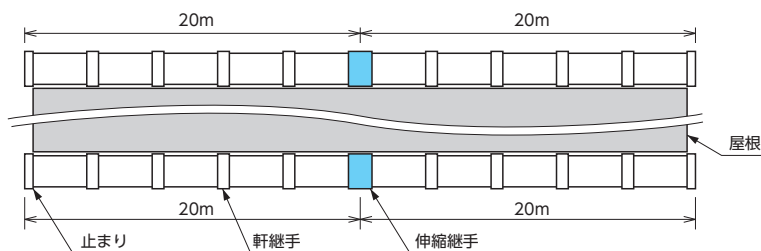


必ず守る

■接着剤は必ず接着剤塗布位置に切れ目なく塗布する
水漏れにより建物を傷めるおそれがあります。

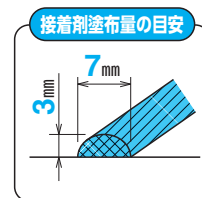
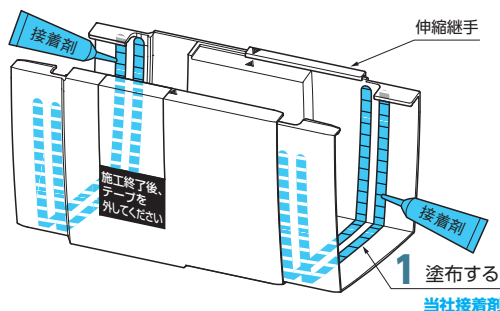
1 伸縮継手の取り付け間隔

- 20m以上の長尺施工の場合、20mごとに伸縮継手を使用する。



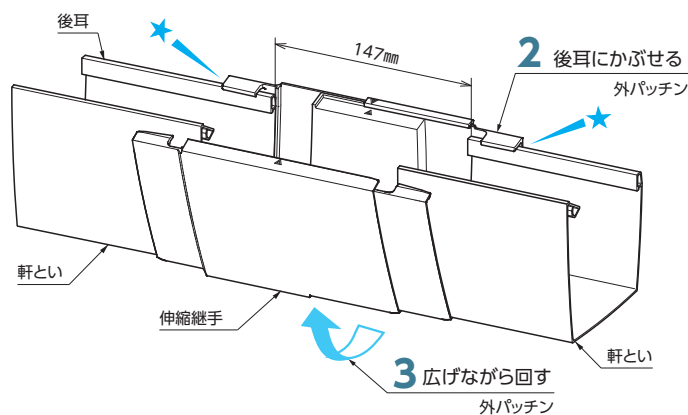
2 伸縮継手の取り付け

- 1 伸縮継手の軒とい接着面に接着剤を全周ひも状に切れ目なく塗布する。
(当社接着剤)



- 2 軒といの間隔が147mmになるように伸縮継手を軒といの後耳にかぶせる。

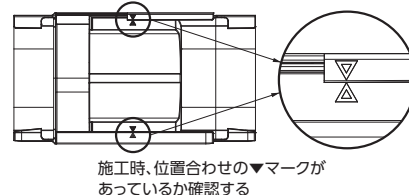
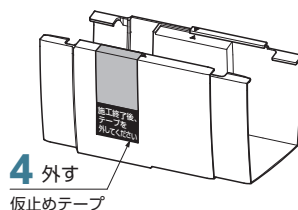
- 3 接着剤をかき取らないように伸縮継手を手前に広げながら回す。



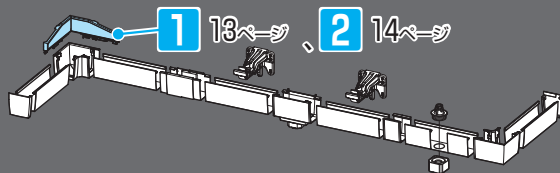
- 4 すべての部材を施工完了後、仮止めテープを外す。

お願い

- 仮止めテープは、施工時、伸縮継手の初期位置がずれないようにするために貼り付けています。外さないと伸縮継手の伸縮機能が障害され、軒といや曲りが破損するおそれがあります。



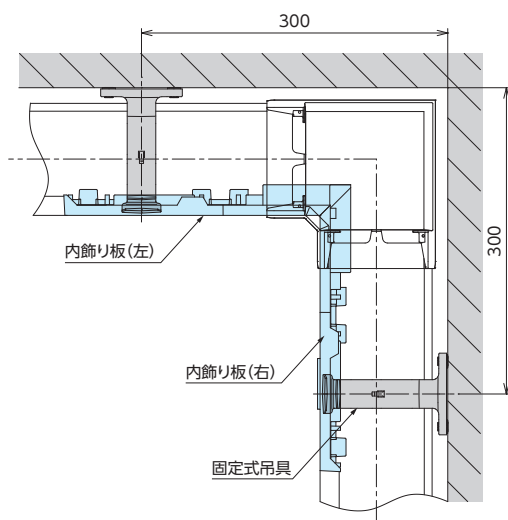
内飾り板の施工



1 吊具の取り付け

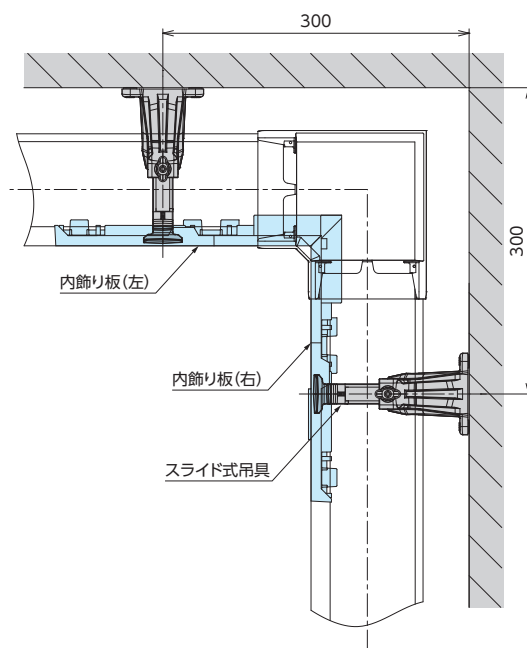
1 曲りコーナー部から吊具の距離を調整して吊具を取り付ける。

【固定式吊具の場合】



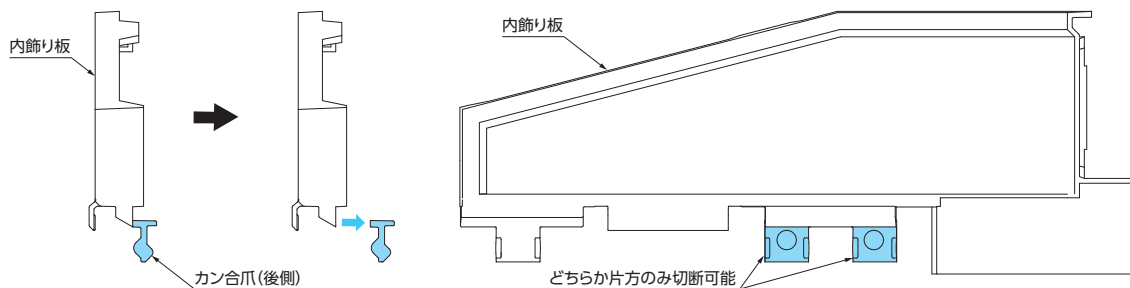
【スライド式吊具の場合】

●スライド式吊具によって軒といが前に出ている場合も固定式吊具と同様の寸法で施工が可能です。



【吊具と内飾り板の干渉が発生した場合】

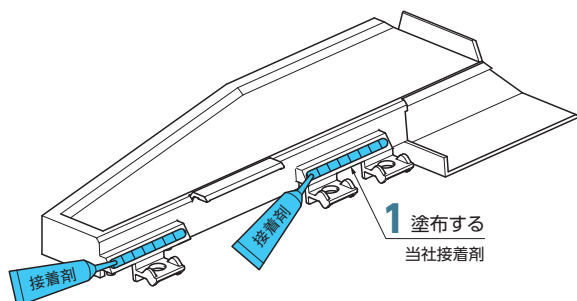
●既設の軒といへの施工などで吊具と内飾り板のカン合爪(後側)が干渉する場合、いずれかのカン合爪(後側)を切断してください。



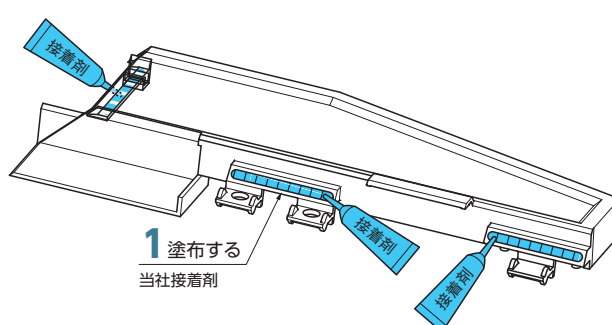
2 内飾り板の取り付け（左・右）

1 接着剤を軒とい接着面に塗布する。（当社接着剤）

内飾り板(左)

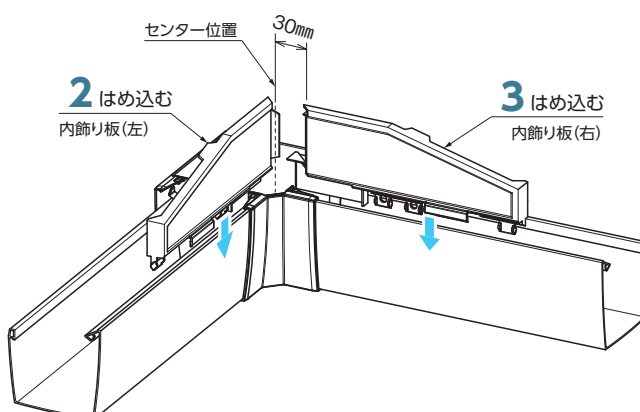


内飾り板(右)

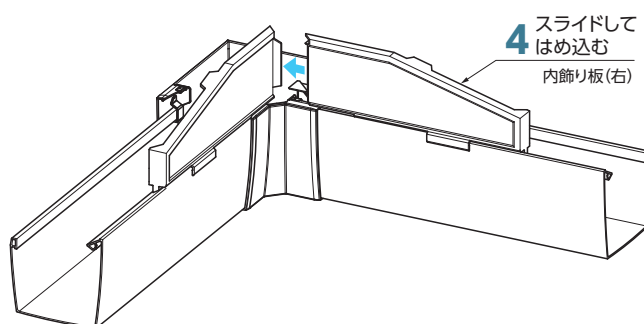


2 内飾り板(左)の下部先端を曲りのセンター位置に合わせ、はめ込む。

3 内飾り板(右)の端部をセンター位置から30mm程度離して、はめ込む。



4 内飾り板(右)を左にスライドして、内飾り板(左)にカチッとはめ込む。



お願い

- 積雪のおそれのある地域では、針金穴を利用して補強してください。

